

2017年2月5日川越教会

## 喜びの知らせ・福音とは

加藤 享

### [聖書]マタイによる福音書11章2～19節

ヨハネは牢の中で、キリストのなされたことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを送って、尋ねさせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」イエスはお答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」

ヨハネの弟子たちが帰ると、イエスは群衆にヨハネについて話し始められた。「あなたがたは、何を見に荒野へ行ったのか。風にそよぐ葦か。では、何を見に行ったのか。しなやかな服を着た人か。しなやかな服を着た人なら王宮にいる。では、何を見に行ったのか。預言者か。そうだ。言うておく。預言者以上の者である。『見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、／あなたの前に道を準備させよう』／と書いてあるのは、この人のことだ。はっきり言うておく。およそ女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネより偉大な者は現れなかった。しかし、天の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である。彼が活動し始めたときから今に至るまで、天の国は力づくで襲われており、激しく襲う者がそれを奪い取ろうとしている。すべての預言者と律法が預言したのは、ヨハネの時までである。あなたがたが認めようとするれば分かることだが、実は、彼は現れるはずのエリヤである。耳のある者は聞きなさい。今の時代を何にたとえたらよいか。広場に座って、ほかの者にこう呼びかけている子供たちに似ている。『笛を吹いたのに、踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、悲しんでくれなかった。』ヨハネが来て、食べも飲みもしないでいると、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、その働きによって証明される。」

### [序] 信教の自由を守る日

今週の土曜日2月11日は**建国記念の日**です。敗戦以前のその日は**紀元節**でした。初代の**神武天皇**が大和の国橿原で即位した日、すなわち**日本国の紀元**だと言うのです。日本の最古の文書**日本書紀**の記事によります。しかし神武天皇の実在性は不明だそうです。戦時中の私の小学校時代、先生に朝早く近所の神社に参拝してから登校するように命じられました。そして学校では、正面に**天皇・皇后の写真**(御真影)が飾られている講堂に全員集まり、国家「君が代」

を斉唱し、最敬礼をして校長先生の朗読する**教育勅語**を聞き、**天皇陛下万歳**を三唱する式典を守りました。2600年も連綿として継続する**万世一系**の天皇を**元首**と戴く世界に例のない特別に**神聖な国日本**の臣民として、天皇陛下に忠誠を尽くし、お国の為**に一身を捧げよ**との校長訓示は、今でも記憶しています。

天皇は**大元帥**として軍隊の最高司令官でもありました。その大元帥の命令の下に、日本軍は満州・中国・アジア諸国に侵略して、アジア諸国の民衆や日本国民の**2000万人以上**もの命と財産を奪ったのです。日本兵は皆**天皇陛下万歳**と唱えて**戦死すべし**と命じられていました。今から振り返れば、全く愚かな**天皇崇拜主義**でした。そこで天皇崇拜の基となる紀元節は、敗戦後、国の祝日から取り除かれました。

しかしどの国も建国を祝う特別な日を持っています。そこで戦後21年たった1966年に、「**建国を偲び、国を愛する心を養う**」という目的で「建国記念の日」が祝日として制定されました。しかし神武天皇即位の日と言われた2月11日がそのまま採用されました。そると再び2600年以上も続く天皇を**象徴**として戴く世界無比の国という言葉が復活し始めました。その典型が今東京オリンピック組織委員長をしている森喜朗元首相が、首相に就任した直後にした発言です。「日本の国がまさに**天皇を中心としている神の国**であるということを国民にしっかりと承知していただく」さすがの国会も彼に不信任決議を突きつけ、いわゆる**神の国解散**総選挙が行われたのでした(2000年5月)。

このように**天皇崇拜**の復活は、民主主義の根幹である**国民の主権**を危くし、**神の国信仰**は**信教の自由を損なう**と受けとめた**キリスト教会**は、2月11日を敢えて「**信教の自由を守る日**」として守ることにしたのです。私は札幌教会時代に、札幌の仲間と自動車5台を連ねて札幌から東京まで行進して、各地の信教の自由を守る集会に参加した経験を持っています。皆さんも11日(土)午後1時半からの浦和教会での北かん連合の集会と一緒に参加なさいませんか。

## [1] ヨハネの質問

さて今日の聖書はマタイ福音書11章、バプテスマの**ヨハネの質問**です。ヨハネは、ナザレで村大工をして母マリアと弟たちの生活を支えていた**30才の主イエス**に「**自分の民を罪から救う者になるからイエス**と名付けられた」という**使命を自覚させ**、キリストとしての生涯を歩み出させた人物です。私たちは1ヶ月前の新年礼拝で、マタイ3章で学びました。もう一度その説教を読み直して、ヨハネの果たした役割を、記憶新たにしていただけたらと思います。

主イエスはヨハネからヨルダン川でバプテスマを受けると、荒れ野に導かれて**40日間の断食祈祷**をして悪魔の誘惑と戦い、それを退けました。そして、ヨハネが領主ヘロデに捕らえられると、ナザレを離れて**カファルナウム**の町に居を定め、「**悔い改めよ、天の国は近づいた**」と宣べ伝え始めました。いよいよ、**救い主キリスト**としての**公生涯**を開始されたのです。

一方ヨハネは、**領主ヘロデ**が兄弟フィリポの妻ヘロディアを自分の妻にしたことを「**律法では許されていない**」と**厳しく批難**したので、ヘロデに捕らえられ投獄されてしまいました。当然ヘロディアはヨハネを殺そうと思いましたが、ヘロデは**ヨハネ**が正しい聖なる人であることを知り、**彼を恐れ保護**し、当惑しながらもなお喜んで**彼の教えに耳を傾けて**いました。しかし結局はヘロディアによって**殺されてしまいます**。(マタイ14章、マルコ6章)

**ヨハネ**は荒れ野でどのような説教をして、集まって来た人々に**罪の悔い改め**を迫り、バプテスマを授けていたのでしょうか。「悔い改めに相応しい**実を結べ**」「わたしの**後から来る方**は、わたしよりも優れておられる。」「その方は**聖霊と火**であなたたちに洗礼(バプテスマ)をお授けになる。そして手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて**倉に入れ**、殻を消えることのない**火で焼き払われる**。」(マタイ3:7~12)

悔い改めに相応しい実を結ぶとは、モーセによって神から示された**律法をしっかりと守り、実践して**、神の民らしく生きていくことです。ヨハネはヘロデ王にも厳しく求めました。しかし捕らえられて、牢獄に入れられています。王に対してでも厳しく迫りながら、王を悔い改めさせることが出来ない**自分の無力さ**を痛感させられていたことでしょう。しかし自分が先触れ役をしているお方**救い主メシア**は、**聖霊と火をもって人々に迫り**、律法をしっかりと守らせてくださる。そして実を結ばない麦は火で焼き払い、実を結んだ麦は倉に納めて下さると信じて、語っていたのでした。

ところが、獄中のヨハネの耳に入って来る**主イエスの働き**は、聖霊と火をもって人々に悔い改めを**厳しく迫る**ものではありません。彼は戸惑いを覚えました。そこで弟子を主の許に送って尋ねたのでした。「**来るべき方は、あなたで**しょうか」

## [2] 主イエスの答

それに対する**主イエスの答**は「目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩

き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、**貧しい人は福音を告げ知らされている**。わたしにつまずかない人は幸いである。」

2週間前の説教で9章に記されている主イエスの働きをご一緒に学びました。**取税人**だという劣等感に、心の晴れない人生を送って来た**マタイ**に、**何のこだわり**も見せずに、声をかけて**新しい人生の歩み**を与えた主イエス。「娘が死んでしまいました。」と助けを懇願する**会堂長**に、**さっと立ち上がって**、一緒に家に行って下さる主イエス。汚れが移るから人前に入ると言われていた**病弱な女性**が、人目をさけて後からそっと主の衣の房をつかんだその行為に、人混みのなかでも**さっと反応して**、癒して励まして下さる主イエス。そして**死んだ娘**を、**当たり前のように**眠りから起こすようにして、生き返らせて下さった主イエス。

このように身をもって**神の愛**を示しながら、**神の福音**を語り続けて居られる働きを、「**貧しい人は福音を告げ知らされている**。わたしにつまずかない人は幸いである」という言葉で、主イエスは締めくくっておられます。**貧しい人**——主イエスは、私たち一人一人の**貧しさ**に目を注ぎ、**優しく命の手を差し伸べて助けつつ**、福音を語っておられるのですね。**厳しい神の裁き**をもって悔い改めを迫る**ヨハネ**と、貧しいものに寄り添って共に生きながら、**命を与えていく主イエス**の働きとは、実に対照的です。

そこで主は言われました。「**わたしにつまずかない人は幸いである**」わたしにつまずくとは、このような人ではだめだと思って**他の人のところに行く**ことを指します。そこで主イエスのこの言葉を、「このわたし以外の人所に行こうなどと思わなくて**よかったね。おめでとう**」と訳している人もいます。矢張り厳しい裁きを示すヨハネは、豊かな深い愛の命を与える主イエスの**先ぶれ役**です。

### [3] 小さな者ヨハネ

もう一つ、**ヨハネについての主イエスの評価**を取り上げましょう。11節です。「はっきり言うておく。およそ女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネより**偉大な者**は現れなかった。しかし、**天の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である**。」ヨハネがなぜ偉大な者なのか、それは旧約聖書の最後の言葉、マラキ書3章22～23節に記されているように、「**主が来られる前にはエリヤが再び遣わされる**」と約束されていました。

**主イエス**が、終わりの時に来られる主であるならば その**先触れ役ヨハネ**は、マラキが預言している**エリヤ**です。だから主イエスは「およそ女から生まれた

者のうち、洗礼者ヨハネより**偉大な者**は現れなかった。」と言われたのでしょうか。しかしそのヨハネですら、「天の国では最も小さな者でも、彼よりも偉大である」と、どうして主イエスは言われたのでしょうか。

それは、ヨハネが主イエスの**十字架の死と復活**を知らずに、早々とヘロデによって殺されたからです。**十字架こそ、すべての者の罪を贖う決定的な救いの恵みの根源**です。天の国に入れられた者は皆、この十字架の救いを信じて迎え入れられるからです。

ヨハネはイザヤ書53章の**苦難の僕の預言**を知っていたでしょう。「わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために、**彼らの罪を自ら負った**」「彼は自らをなげうち、**死んで**、罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人を過ちを担い、背いた者のために**執り成し**をしたのは、この人であった」しかしヨハネは、この預言を十字架の死によって成就した**主イエスの死**を、知らずに死んでいきました。

**十字架の死こそ、神の愛の完全な啓示**です。しかしヨハネは聖なる神、義なる神を語りましたが、神の愛の完全な啓示に接することが出来ませんでした。ここに「天の国では、最も小さな者でも、彼よりも偉大である」と言われる**ヨハネの限界**があるのですね。

このことは、旧約聖書の、アブラハム、モーセ、或いはイザヤ、エレミヤ等の優れた信仰者についても、同じ様に言われることです。ですから13節の「すべての預言者と律法が預言したのは、ヨハネの時までである。」即ち「**旧約聖書の神理解は、ヨハネで終わりを迎えた**」（聖書教育）と主イエスは言われたのでした。

### 【結】 福音を聞きつつ生きる

マタイ福音書14章に、**ヨハネの無残な死**が記されています。ヘロデ王の誕生日の祝会で**ヘロディアの娘**が、踊りでヘロデを喜ばせました。「願うものは何でも与える」娘は母と相談します。そして母の指示に従って「**ヨハネの首**を盆に載せて、この場でください」と申しました。王は心を痛めますが、大勢の客の手前、変更できず、命令を下します。ヨハネは牢の中で首をはねられ、**盆に載せられた首**が、宴会の席上で娘に渡されました。何と悲惨な最期でしょうか。

しかし**主イエス**も、大祭司たちに捕らえられ、彼らの強い要求に動かされた総督ピラトによって**十字架**にはりつけられ、群衆から嘲りの言葉を浴びながら

6時間もの苦しみの末に死にました。ヨハネよりももっと**悲惨な最期**でした。**この世は**、ヨハネも、主イエスをも**拒絶して**殺してしまう、**悪の強く働く場**なのです。私たちはこの罪深さをよくよく自覚しながら、生きていかなければなりません。

「**貧しい人は福音を告げ知らされている**。わたしにつまずかない人は幸いである。」苦しむ者、悲しむ者、悩む者、弱い者にさっと寄り添って、命の手を差し伸べて下さる主イエス・キリスト。私の罪を引き受け、私に代わって裁きを受けて、私を贖い、**永遠の命の祝福を与えて下さる救いの道**を開いて下さった救い主イエス・キリストの福音。この**喜びの福音**を信じて、ヨハネを、主イエスを殺してしまうこの世で、互いに愛し合って生きて参りましょう。

祈ります：神さま、今朝もこのように愛する兄弟姉妹と共に、礼拝を守る恵みに与えることが出来ましたことを、心から感謝いたします。願いつつも集えなかった一人一人の上にも、あなたの聖霊の祝福が豊かにありますように、お祈りします。ヨハネもキリストも殺してしまうこの世に、私たちは今、暮らしていることをよくよく自覚させてください。私の罪を清めて下さい。そして互いに愛し合って生きる者にして下さい。平和を創り出す者にして下さい。私たちの国日本が、二度と戦争の悲劇を犯すことがないように、導いてください。今も世界の至るところで、銃が火を噴き、命が奪われています。主よ、どうぞお救いください。この祈りを救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン